

ESDストーリーマップ

第3学年 「心の目を育てよう」



目指す子供の姿	障害を持った方は、障害を乗り越えながら社会の一員として生きていることに共感したり、また、そのような方々の思いや願いをふれたりしながら、相手の立場に立ったものの見方や考え方ができるようになる。自分たちの社会はお互いに理解し、尊重しあい、支え合いながら成り立っていることに気づくことができる。											
身につけさせたい能力・態度	①課題を見出す力 ②批判的に考える力 ③未来を予測して計画を立てる力 ④多面的、総合的に考える力 ⑤コミュニケーションを行う力 ⑥他者と協力する態度 ⑦つながりを尊重する態度 ⑧進んで参加する態度 (重点は下線)											
月	8月			9月			10月			11月		
総合的な学習の時間	課題設定 → ステージ1(情報収集) → ステージ2(計画・実践) → 行動・発信・振り返り											
	自分たちの校区を調べて、たくさん便利で住みやすい町であることを学んだことから、住んでいる人々は健常者だけではないことをアイマスク体験を通して話し合い、課題をつかむ。 1) アイマスクをつけて歩いてみる体験をする。 ・怖い ・一人では歩けない。 ・目が見えない人はどうやって生活しているの。 ・私たちの謝意では健常者だけでなく、障害を持ったひとも生活している。 2) 福祉という言葉の意味を知る。 ・障害を持った方も幸せに	障害を持った方の生活についてどのような工夫や支援があるのか調べよう。 3) それぞれの課題に沿って本やインターネットで調べる。 ・盲導犬、点字、杖、信号機の音などについて調べよう。 ・バリアフリーってなんだろう。 ・車いすにのった経験があるよ ・社会福祉協議会の方の紹介でビデオをみよう。 ・ヘレンケラーの話の本で読んでみよう。 ・足の不自由な方や耳の不自由な方のことについて調べてみよう。	社会福祉協議会の方の紹介で目の不自由な方をお呼びし、困ったことはないか、どのような思いで生活しているのか実際にお話を聞こう。 4) 目の不自由な方をお招きしていろいろなお話を聞こう。 ・目は見えなくても心の目でみているんだな。 ・目は見えなくても杖や介助者の方が支えてあるから心配ないんだな。 ・友だちもたくさんいらっしやるし、いろいろな習い事もしてある。 ・とても明るいし、生き生きと過ごしてあるんだな。 5) じぶんたちもなにかおてつだいすることはないかな。 ・学んだことをまとめてだれかにつたえよう。 ・1, 2年生にわかりやすく伝えよう	健常者も障害を持った方もかけがえのない存在で、みんなが幸せに、豊かにくらしていける社会であることを話し合っ、まとめ、伝えていこう。 6) 「もし自分が目が見えなくなったらどうするか。」「もし、歩けなくなったらどうするか。」「もし、耳が聞こえなくなったらどうするか。」というテーマから調べたことを模造紙にまとめ低学年に伝えよう。 ・目の見えない方は、いろいろ工夫(盲導犬、杖、ブロック歩道など)で生活してある。 ・足の具合の悪い方も車いすなどで生活してある。 ・耳の聞こえの悪い方も補聴器、手話などで暮らしてある。 7) 自分たちにできることをつたえよう。 ・目の見えないかたが困っていたら、やさしく声をかけてあげる。 ・耳の具合の悪い方には鉛筆と紙で文字を書いて教える。 ・車いすの方が段差のあるところで困っていたら。お手伝いしてあげる。 ・困っている人がいたら声をかけ、手伝ってあげる。								
教科等との関連	内容面 《国語》「はんでいけんをまとめよう」 ・いろいろないけん出し合い、共通するもの違うものに整理する。						《理科》植物の成長 ひまわりやほうせんかの育っていく様子の観察					
	《道徳》「ぼくのおばあちゃん」 ・家族愛、家族生活の充実 について学ぶ。				《道徳》「ふるさといいところさがし」 ・地域のよさ、伝承、住みよい町について学ぶ。							
	方法面 《国語》「宝島のぼうけん」 ・はんで意見を出し合いよりよい方法を考える。						《国語》「伝わる言葉であらわそう」 ・言葉の意味や使い方を知り、適切に使うことができる。					